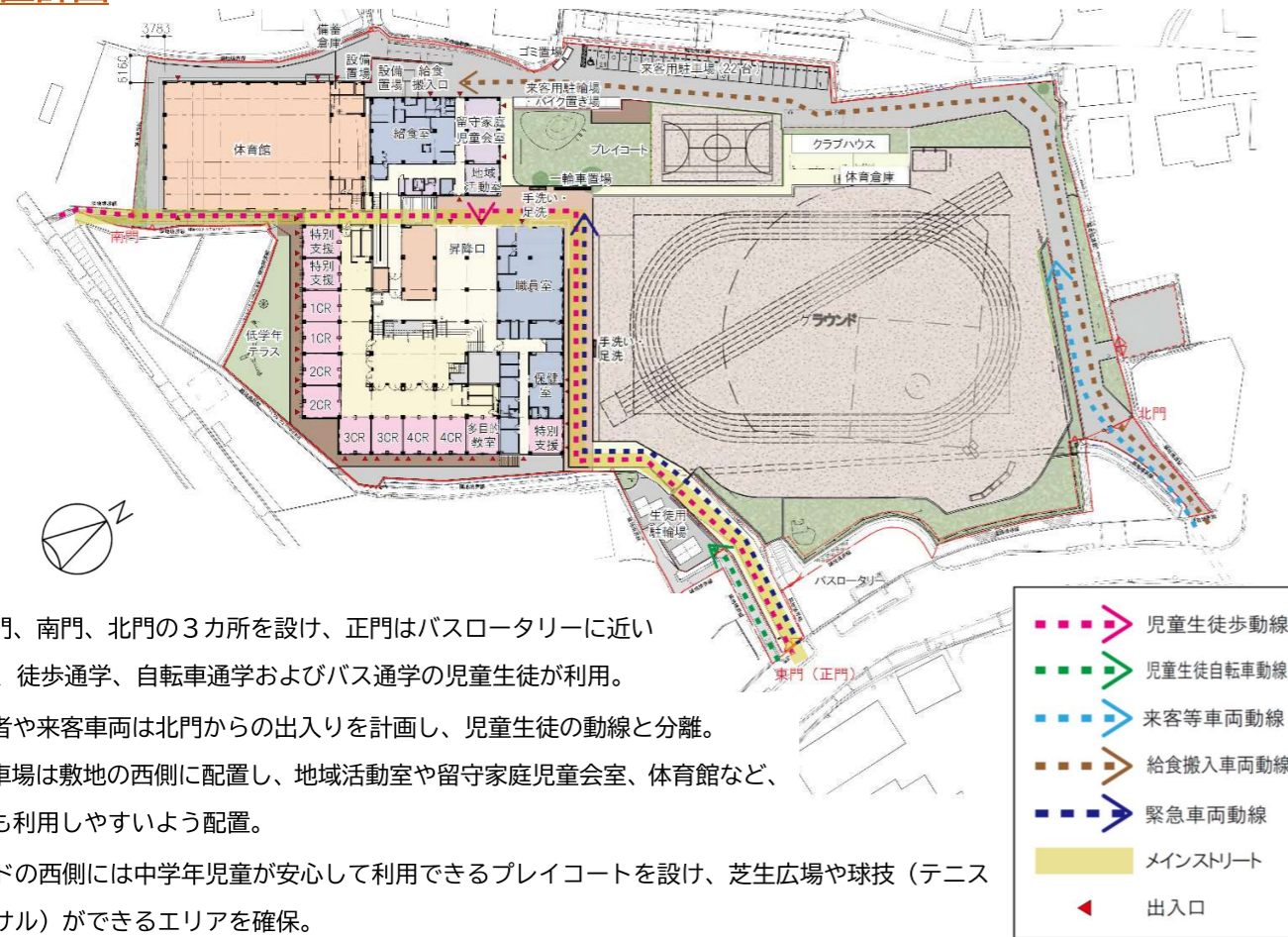


◆全体配置計画



- ・校門は東門、南門、北門の3カ所を設け、正門はバスロータリーに近い東門とし、徒歩通学、自転車通学およびバス通学の児童生徒が利用。
- ・給食配送者や来客車両は北門からの出入りを計画し、児童生徒の動線と分離。
- ・来客用駐車場は敷地の西側に配置し、地域活動室や留守家庭児童会室、体育館など、地域の方も利用しやすいよう配置。
- ・グラウンドの西側には中学年児童が安心して利用できるプレイコートを設け、芝生広場や球技（テニスやフットサル）ができるエリアを確保。
- ・校舎の南側屋外には複合遊具を備えた低学年テラスを設け、低学年児童が短い休憩時間にも遊べる空間を創出。

◆施設概要

- 学 校 名：和泉市立（仮称）槇尾学園
- 所 在 地：大阪府和泉市仏並町
- 敷地面積：20,602.27㎡
- 延床面積：約7,433㎡（校舎棟）、約1,284㎡（体育館棟）
- 構造規模：RC造一部S造 地上2階建（校舎棟）、RC造一部S造 地上1階建（体育館棟）
- 設計施工：松井建設・深阪工務店・山田総合設計特定建設工事共同企業体
- 設計監修：(株)石本建築事務所 大阪オフィス

◆スケジュール

- 令和3年 3月 基本計画策定
- 令和3年 7月 基本設計策定
- 令和3年12月 デザインビルド事業者（実施設計・施工）決定
- 令和4年 8月 実施設計策定
- 令和4年 9月 本体工事着工
- 令和5年 7月 新体育館完成
- 令和6年 7月 新校舎完成
- 令和7年 3月 グラウンド整備・外構工事完了（予定）
- 令和7年 4月 開校（予定）

和泉市立

（仮称）槇尾学園

施 設 案 内



(仮称) 榎尾学園 ~小中一貫特認校として市内の児童生徒から選ばれる魅力ある学校~

◆施設コンセプト

①校舎すべてが学びの場

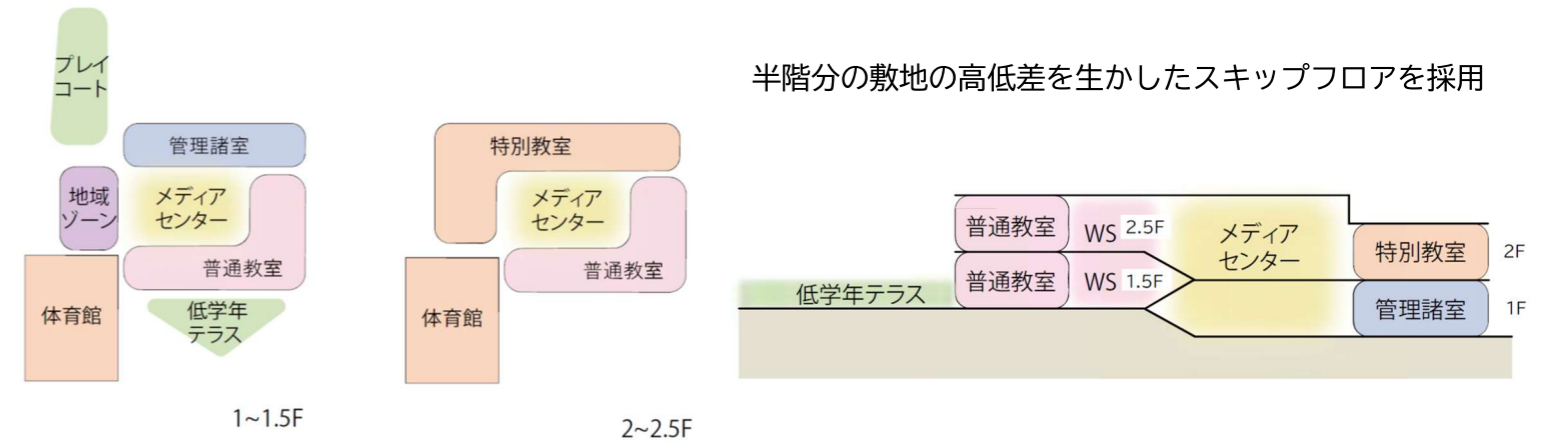
- 校舎の中心に学びのきっかけがいっぱい詰まったメディアセンターを配置
- 普通教室前には十分な広さのワークスペースを設け一体的な学習利用が可能

②地域と共に育む校舎

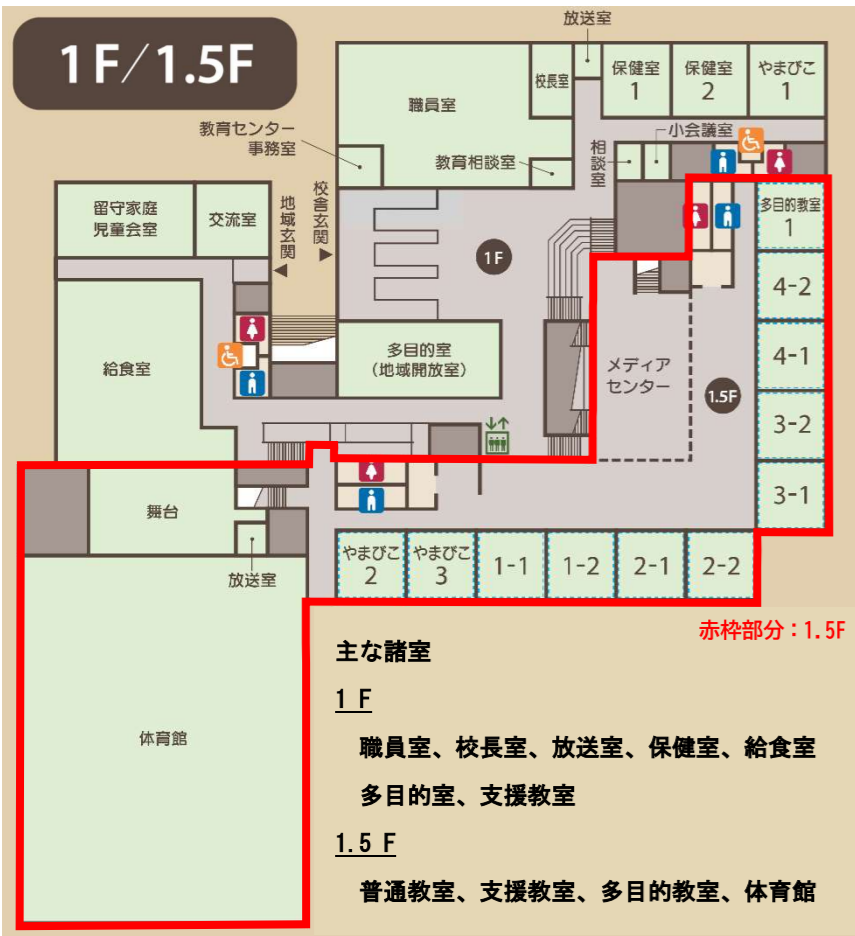
- 地域の人々と児童生徒が日常的に気軽に交流できるように地域ゾーンと学校ゾーンとを一体的に計画
- 児童生徒がいつもお互いの活動を感じられるように校舎全体がひとつ屋根の下で緩やかにつながります

③敷地の特性を生かした校舎

- 校舎は、約2mの敷地の高低差を利用し、各階が半階ずれたスキップフロアを採用（縦移動の負担を軽減）
- 南門側からもグラウンドに抜けられるよう敷地の高低差を生かした立体交差の動線を確認



◆フロア図



メディアセンター



児童生徒の日常的な学びや交流の場として各諸室からアクセスしやすい学校の中心の共用スペースにオープンな形で配置。新聞・雑誌・書籍・インターネットなど多種多様なメディアを充実。ルーバーや柱まわりのベンチには「いずもく」を使用し、木のぬくもりに包まれた空間を創出。

多目的室



地域開放室として、様々な目的に応じて利用可能。圧迫感を感じないよう他の教室より天井の高さを確保。

体育館



東西方向にバスケットコート2面、南北方向に公式バスケットコート1面配置可能。災害等による停電に備えプロパンガスを熱源とした自立発電運転機能を有するGHP空調を設置。発電した電力により照明の一部や非常用コンセントも使用可能。屋外から出入り可能な防災倉庫も設置。



普通教室



各教室には黒板ではなくホワイトボードを設置し、多様な学習活動に活用できるようプロジェクターを常設。教室の扉はセミクローズドとし、教室前に創作活動やグループ学習ができる広さのワークスペースを確保することで一体的な利用が可能。

特別教室



2階に特別教室（理科室、美術室、技術室、家庭科室、音楽室）を集約し配置。

多目的ホール



発表会や軽運動、地域交流、イベントなど多様な用途で使用可能。多様な学習活動に活用できるようスクリーン、プロジェクターを常設。

支援教室（やまびこ1~4）



全体で4教室を確保し、1室は多様な児童生徒に対応できるよう保健室横に配置。